

5. 災害調査 観音寺雪崩災害調査 (2015. 2. 2-6)

研究代表者	雪氷：阿部 修	実施期間	平成 26 年度
研究参加者	雪氷：中村一樹		

[目的]

2015年1月31日23時5分頃、東根市観音寺の黒伏高原スノーパークの西側約1kmの地点で3カ所にわたり雪崩が発生し、市道を覆いスキー客らの車両が一時立ち往生した(山形新聞2015年2月2日)。巻き込まれた車両や人的被害はなかった。本調査の目的は、現地の雪崩跡および積雪が時間とともに変質する前に災害調査を行い、雪崩の発生原因を明らかにすることにより、災害防止に資することである。

[実施内容]

2月2日および6日に雪崩現地調査を行った。ただし、市道を覆った雪崩は除雪されていたので、その付近で発生した小規模の面発生乾雪表層雪崩を調査した(図1、2)。雪崩の幅は約20m、斜面長は約30mであった。なお、同時刻に南東に約7km離れた国道48号関山峠でも雪崩が発生した(別件調査報告参照)。

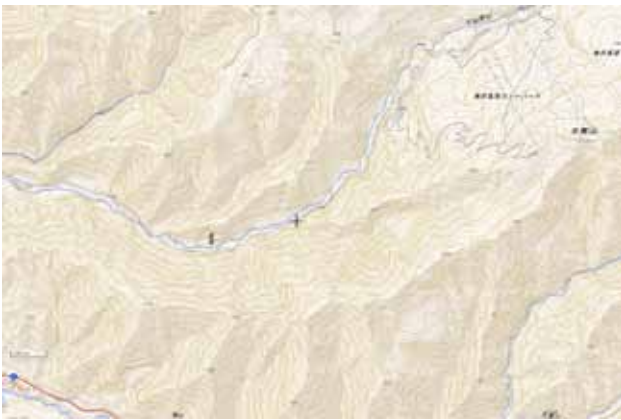


図1 雪崩観測地点 (+印)



図2 雪崩の破断面

[成果と効果]

雪崩は標高483m、傾斜角 38° 、方位角 13° (ほぼ北向き)の斜面で発生した。弱層は同日に国道48号関山峠で発生した雪崩と同様、雲粒のない降雪結晶であった。破断面における断面観測の結果、この弱層の位置はざらめ雪のすぐ上にあり、降雪初期に形成されたことがわかった。

要因となった弱層を含む積雪サンプルを採取し、X線CTで撮像したことから、今後詳細に解析する予定である。また、この種の雪崩はある程度標高の高く気温の低い場所で発生することから、発生予測研究には高標高で気象・積雪観測を実施する必要がある。

